

情勢報告（平成28年4月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

平成28年度茶生産振興に関する取組みを共有しました ～JAコスモス茶生産組織～



JAコスモス茶生産部総会

JAコスモスでは、同吾川支所総会(4/5)、同茶生産部会総会(4/12)、同佐川支所全員会(4/15)に、のべ茶生産者80名が参加して、生産振興の取組みが協議されました。

平成28年度は、消費宣伝活動への積極的参加、新たな茶商品の開発、安全・安心な農産物の提供、環境保全型農業への取組みなどに重点的に取り組むことが決定しました。また、昨年からの採用の茶販売促進担当職員の販促活動により、仕上げ茶販売額を前年より約150万円増加させたことの報告を受け、出席者は販促活動の重要性を再確認しました。

当普及所ではJAコスモスと密接に連携しながら、これらの重点的な取組みを支援していきます。

越知町、仁淀川町で露地ニラの植え付けが始まりました



ポット苗の苗取り

4月7日、JAコスモスニラ生産部の露地栽培生産者18名の参加により栽培講習会が開催され、生産者は除草剤の使用方法や定植時の注意点について確認しました。

4月11日に農業公社からの苗引渡しが始まり、大半の部会員が苗の植え付けの深さに注意しながら定植を済ませました。

普及所ではJAと連携して個別巡回で生育状況を確認するとともに、肥培管理や病害虫対策などを周知し、生産安定のために支援していきます。

育苗技術の見直しにより良質な苗が確保できました



露地苗の定植

JAコスモスニラ生産部では、露地用のセルトレイ育苗を農業公社に依頼しています。ニラ苗の苗質を改善するため、昨年までの育苗管理を見直し、播種時期を20日程度早くしました。12月上旬に播種したことで、発芽率も向上するとともに生育が良く、苗質も向上しました。定植時の個別巡回では、「苗が揃っていて植えやすい」といった農家の声もありました。

今後も普及所ではJAと連携し、ニラの収量アップや品質の向上および生産安定のために支援していきます。

地域の特産品「山椒」の害虫対策を実施



被害果(左)と正常果

当普及所管内には県内有数の山椒産地があり、食用や薬用向けの栽培がされています。近年、山椒の実が褐変する症状が一部でみられていましたが、昨年は特に被害が大きく、チャノキイロアザミウマによる被害と思われました。

今年、その対策として開花前の3月下旬から地区内にトラップを設置し、チャノキイロアザミウマの発生状況を調査するとともに、生産者に発生状況や防除方法の情報提供を行いました。今後、被害状況を調査し、効果判定を行う予定です。

普及所では、山椒の安定生産のため、病害虫防除対策や施肥管理、せん定講習など、支援を継続していきます。